

1 研究の経過

月 日	校内研修 研究授業等	研究内容 (理論研修, 単元開発, 評価研究等)	講師等
5月8日	校内研修	第1期・第2期の報告	
5月25日	校内研修	千代田中学校の生徒につけたい 「資質・能力」について	西部教育事務所芸北支所 熊野尚子指導主事 北広島町教育委員会 森近泰典主任指導主事
7月13日	研究授業	単元開発 授業者：石浦可愛教諭	西部教育事務所芸北支所 平岡弘資支所長 西部教育事務所芸北支所 熊野尚子指導主事 北広島町教育委員会 森近泰典主任指導主事
8月7日	校内研修	資質・能力を高める 「主体的な学び」について	広島大学大学院 松浦拓也准教授
9月5日	研究授業	単元開発 授業者：石浦可愛教諭	西部教育事務所芸北支所 中谷一志教育指導課長 西部教育事務所芸北支所 熊野尚子指導主事 北広島町教育委員会 森近泰典主任指導主事
10月28日	校内研修	「課題発見型」の単元開発のポイント	
11月30日	校内研修	情報の収集・整理・分析	
12月13日	公開研究会	単元開発 授業者：小阪英樹教諭 原田真由美教諭 一ノ瀬泰典教諭	西部教育事務所芸北支所 平岡弘資支所長 西部教育事務所芸北支所 熊野尚子指導主事 北広島町教育委員会 森近泰典主任指導主事
1月6日	校内研修	「小集団での学習」の充実に向けて	

2 研究の概要

(1) 研究主題及び研究のねらい等

①研究主題

主体性、協働性、創造性を育む授業づくり
～課題発見・解決学習型の単元開発を通して～

②本校の実態

「基礎・基本」定着状況調査では、どの教科もタイプⅠ・Ⅱともに、広島県平均（H27）と同じか、平均を上回っている。しかし、複数の知識や資料を関連付けて思考する設問では無解答率が30%を超えるものもあったことから、身に付けた知識・技能を活用し、自分なりの考えを導くことが不十分であるといえる。また、「課題発見・解決学習」に関する設問では、肯定的評価が60%程度に留まり、全ての生徒が主体的に課題の解決に取り組んでいるとは言えない。

③研究のねらい

これからの社会はさまざまな課題に対応できる資質・能力が身に付いてなければならず、そのためには主体性・協働性・創造性が重要である。日々の授業では「主体的な学び」が不可欠となり、学習内容を生徒自身が自分事の課題として捉え、継続的に意識する必要がある。そのために、単元を貫く課題を生徒自身が見出し、解決に向けて思考していけるように「授業づくり3本柱〈導入の工夫〉〈小集団での学習〉〈振り返りの充実〉」を軸に、授業改善を図り、授業づくりを目指す。

(2) 研究内容

①本校で身に付けさせたい資質・能力の位置付け

本校の生徒に「付いている力やできていること」、「付いていない力やできていないこと」を全教員一人一人が記述し、「広島県版『学びの変革』アクションプラン」を参考に、付けた力（資質・能力）がどの領域に属するか対応させた。それを「各学年の段階に応じた資質・能力」「各教科で重点的に育てる資質・能力」の表に整理し、全教員で共有した。

②授業づくり3本柱

〈導入の工夫〉

「ゴールの姿」を生徒・指導者が共有する場面を設定する。また、導入ではズレやギャップを感じさせ、それを「課題意識」として醸成し、「考えたい」「考えなくてはならない」という意欲や責任感を持たせていく。

〈小集団での学習〉

「ルール」「目的や効果」を生徒・指導者が共有し、「小集団での学習」の理想の姿を生徒に具体的に示すことで、主体的な学びを促す。また、小集団での学習にふさわしい課題を設定していく。

〈振り返りの充実〉

理解できなかったことや疑問を記述しておくことで、「自分だけの新たな課題」が生まれ、次の学習の目的となり、意欲につながる。また、視点を与えて学習を振り返らせることで「学びのつながり」「学びの広がり」を体験させることができ、単元終了後も自ら学び続ける態度が育つ。

3 成果と課題（○成果 ●課題）

(1) 資質・能力の設定

○資質・能力が身に付いた具体的な姿を全教員で共有することができた。

●教科の力との関係が整理できず、資質・能力との2本柱で評価しなければならなかった。

●設定した資質・能力をどのように生徒に示し、評価していけばよいのか、教員全体で共有できていない。

(2) 授業づくり 3本柱

○授業づくり		「課題発見・解決学習」に係る設問	1学期と3学期の差	ややあてはまらない まったくあてはまらない
授業づくり 3本柱	導入の工夫	(13) 授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」、「やってみよう」と思います。」	+6.8	20.9
	小集団での学習（設問は学習活動の中で多く取り入れるため指標とした）	(17) 授業では、調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめています。	+3.1	48.2
		(18) 授業では、情報を、比べたり（比較）、仲間分けしたり（分類）、関係を見付けたり（関係付け）して、何がわかるのかを考えています。	-1.9	29.6
		(19) 授業では、自分の考えを積極的に伝えています。	-0.4	39.9
		(25) 授業では、友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。	+8.1	10.3
	振り返りの充実	(22) 学習の振り返りをするときには、「どこまで分かったか」、「学習の方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由」を考えています。	+11.5	28.1
		(23) 学習の振り返りをするときには、「もっと考えてみたいこと」、「もっと調べてみたいこと」、「もっと工夫してみたいこと」などを考えています。	+12.9	32.0

平成27年度広島県「基礎・基本」定着状況調査 中学校生徒質問紙

【生活と学習に関する調査】と授業づくり 3本柱との関係

〈導入の工夫〉

- 「なぜだろう」「やってみよう」と主体的に学習内容に向かう意識を高めることができた。
単元・授業の導入で、「継続的な課題意識」となる工夫をした成果と考えられる。
- 主体的に取り組む意識が低い生徒に対する手立てが不十分である。

〈小集団での学習〉

- 自分の意見を持ち、話し合いに参加できる手立てを講じたことで、主体的な話し合いになっている。話し合いに対する意識が高まっていると言える。
- 思考するための手立てが十分定着しておらず、必要に応じて適宜活用するに至っていないことが考えられる。

〈振り返りの充実〉

- 振り返りをする際に、「単元を通して」「前時との関わり」「他教科との関わり」など視点を与えることにより、つながりや広がりをもたせることができた。
- また、振り返りにより生まれた疑問や気づきをどのように生かすかも課題である。

4 今後の改善方策等

①資質・能力の設定

- ・身に付けさせたい資質・能力の設定と評価の方法の検討
- ・設定した資質・能力と教科の力との関係の整理と評価の在り方の検討、共有化
- ・生徒に提示し自己評価させ、意識をもって学習に取り組ませる。

②授業づくり 3本柱

- ・今年度開発した単元の検証と指導案の改善
- ・導入の学習の際に生じた疑問・気づきを記述させたり、それに対して分かったことや答えなどを加筆したりし、学習の変容が生徒自身で感じることができるよう場面を設定する。
- ・他者の意見を整理・分類・関連付け、自己の考えを深めるための「聞く力」を育成し、より高い小集団での学習を目指す。
- ・振り返りの方法を、つながりや広がりのある学習とするために型や仲間の記述を紹介し、どのような書き方をすればよいのか明確に示す。